

# The TENDAI journal

令和7 (2025) 年10月1日 水曜日  
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 坂本 圭司  
〒520-0113大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：t-press@tendai.or.jp



広報天台

## 7年ぶりに一隅を照らす運動推進大会 実践3つの柱で被災地支援継続 — 陸奥教区 —



陸奥教区本部は3年毎に一隅を照らす運動推進大会を開いてきたが、令和2年頃から流行が始まった新型コロナウイルス感染症により開催中止を余儀なくされていた。実に7年ぶりの開催となった今大会には、教区全域より約400人が参加し、再会を喜び合った。菅原光聰副部長の開会の辞で開幕後、千葉

本部長は「普段の生活の中にも一隅を照らす運動の精神を活かし、菩提寺の住職とともに活動してもらい生活に溶け込める運動を目指したい」と決意を述べた。同教区出身で現在天台宗参務の四電亮真法人部長は「一人ひとりが一隅を照らすことにより、社会が照らされていく。改めて一隅を照らす運動

一隅を照らす運動陸奥教区本部（千葉亮賢本部長）は9月5日、岩手県奥州市の前沢ふれあいセンターで「一隅を照らす運動岩手大会」を開催した。コロナ禍により平成30年に仙台市で開かれて以来、7年振りの大会に約400人が参加。一隅を照らす運動の精神を再確認し、東日本大震災をはじめ各被災地の早期復興と世界平和を願いともに祈りを捧げた。

### 被災経験を 後世に繋ぐ

また第二部では、一隅を照らす運動広報大使の露の団姫師による落語、県沿岸部に伝わる郷土芸能の大槌城山虎舞の迫力ある演舞が大会に華を添えた。

今大会では、「災害・たすけあい・みとめあい」をテーマに座談会が開かれた。国難とも言われる東日本大震災から14年が経ち、被災地には徐々に活気が戻りつつある。しかし国内外では災害が頻発し、いまだ戦争が絶えない状況が続く。多くの人が被災者となった同教区として、震災当時の様子を後世に伝える責任から座談会を企画した。

四電法人部長、露の団姫師、天台仏教青年連盟前副代表の小林伯裕報恩寺住職、大槌城山虎舞のメンバーをパネリストに、菅野宏紹陸奥教区本部事務局長が進行した。各者が体験した震災当時の



様子やボランティア活動に従事した経験談などが語られ「先祖らが繋いでくれた絆が有事の際に活きた」、「被災者への共感の気持ちが大切」などの意見が出された。また防災への豆知識なども紹介された。菅野事務局長は「支援にも一隅を照らす運動の『生命・奉仕・共生』の実践3つの柱で成り立っていることを話しを聞いて改めて感じた。一人ひとりが出来ることから実践し、示すことで周りに広がることを願っている」とまとめた。

なお参加者からの浄財として約130万円が同総本部地球救援事務局に寄付された他、教区仏教青年会による募金活動も行われた。

### 謹告

諸般の事情で第272号は11月5日付の発行といたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

### 極微

イスラエルとパレスチナの「2国家解決」で、世界各国の意見が割れている。9月22日に国連本部で

の2国家解決に関する会議で、パレスチナをイギリスやフランスなどが国家承認し、これに加盟国の8割以上となった。だがアメリカのトランプ大統領は反発。日本は支持しつつも承認を見送った▼同案は、イギリスのパレスチナ統治が終了した1947年に遡るが実現しなかった。その後、双方歩み寄るも長続きせず、今は軍事力を誇るイスラエルの攻撃は激しさを増している▼分断が深まりつつある中、今月末に世界の宗教指導者が対話と祈りで平和を求める「世界宗教者平和の祈りの集い」がローマで開かれる。毎大会、必ずEU各国首脳らが出席し、平和論と宗教者への期待感を示してきた▼2国家解決案では、パレスチナ国家を樹立し東エルサレムを首都とする一とある。大会を主催する聖エジディオ共同体は、1995年に三大宗教の聖地エルサレムで集会を実現させている。創設者のアンドレア・リッカルディ氏は「エルサレムの将来は単に国家的命運により決めるべきではない。そしてその普遍的な使命とは平和の達成である」と述べている▼解決には相互尊重の姿勢も重要だろう。分断を加速させないため、40年にわたり宗教宗派の枠を超えて平和を祈り対話してきた宗教者らの智慧と友情から方策を示して欲しいと願う。